

あいちトリエンナーレ 2010 芸術監督
建畠 哲（たてはた あきら）

現職：国立国際美術館館長



1947年京都府生まれ。1972年早稲田大学文学部仏文学科卒業後、新潮社勤務、文化庁を経て、国立国際美術館研究官（1976年～1991年）。多摩美術大学助教授・教授（芸術学科）を経て、2005年から国立国際美術館館長、独立行政法人国立美術館理事。専門は近代と現代の美術。

1990年と1993年に、ヴェネツィアビエンナーレの日本パヴィリオンコミッショナーを務めたほか、2001年の第1回横浜トリエンナーレでは4人のアーティストック・ディレクターのうちの1人。その他、2002年の釜山ビエンナーレ・エキジビション・ディレクティング・チーム（4名体制）のメンバーを務めるなど、国際的な芸術祭の経験が豊富。

国内の美術展としては、「アジアのモダニズム」展（1995年）、「インド現代美術展」（1998年）など、アジアの現代美術に目配りした展覧会を数多く企画。

国立国際美術館では本年度に「エミリー・ウングワレー展」、「液晶絵画展」、「アヴァンギャルド・チャイナ―＜中国当代美術20年展＞」等を企画。

著書は「ダブリンの緑」、「問いなき回答」（以上、五柳書院）など多数。代表的な詩集に「余白のランナー」（思潮社、歷程新鋭賞受賞）「零度の犬」（書肆山田、高見順賞受賞）などがあり、美術評論家としてのみならず、詩人としても有名。